

# あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり

2022/7/13 横須賀市教育委員会



## 7月号

## 策定に関わった方の思い「市民と保護者の視点・その1」

前号まで、教育振興基本計画における「横須賀の目指す教育の姿」策定までの議論や、そこに込められた思いをご紹介してきました。

今回は、計画の策定に関わった横須賀市教育

振興基本計画策定検討委員会の委員の皆さまの「横須賀の目指す教育の姿」への思いや検討を振り返り、コメントをご紹介します。

## 小野寺 恵吏子 委員

公募市民

子どもたちに横須賀を  
好きになってほしい

子どもたちには、横須賀を好きになってもらい、自信を持って社会に出て、そして大人になって帰ってきて横須賀に貢献できるような人に育ててほしいと思っています。

目指す教育の姿には、キャッチフレーズ、キャッチコピーのようなものがあると、私たち親や市民は何がしたいか、はっきり分かるのではないかと考えていました。「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」というフレーズは気に入っています。子どもたちに地域を好きになってほしいという気持ちが込められたのではないかなと思います。

## 「好き」はすべて「I like～」で表現できるか

横須賀市内では、さまざまな国の子が共に生活しています。教員が子どもたちにこれを伝えるとき、すべて「I like～」で表現できるだろうか、と疑問を持ちました。

例えば「あなたが好き」は、「I'll treasure you」という表現にするなど、英語にすると日本語のニュアンスが少し砕けて伝わりやすいと思います。

外国につながるのある子や保護者にも伝えるのであれば、英語の表記も考慮するともう少しやさしく伝わると思いますし、単純に、横須賀らしいと思ってもらえるのではないかとも思いました。

## 学校の先生の子どもたちへの愛情を感じた

私は、広報を見て委員に応募しました。小3と小1（当時）の子どもがいます。計画期間の8年後、下の子はまだ中2で学校生活の真ただ中にあり、他人事ではないと思い、参加させていただきました。

時代が変わり、入試が変わり、親は教育に対して不安が多いのです。この計画に関わり、学校の先生が子どもたちに愛情を持たれているということをもっと感じました。横須賀市や教育に対し、少し安心というか、ほっとしたところがあります。

またこのような機会があれば参加したいと思いますし、次の新しい10年、未来も子どもたちと一緒に学び続けていく社会になっていると思います。

子どもには、世の中の流れに巻き込まれず、自分の足で進むことができようになりたいと思います。

計画ができて実行されて、学校教育現場で反映されることを願っています。



## 岡本純子委員

公募市民



### 学びを礎に豊かな人間力を 備え、自己実現に向かう

これは、私なりに考えた目指す教育の姿です。詰め込み教育は私たちが昭和の時代に受けていたものですが、今、知識教育は良くないということが前面に出ています。

しかし、知識がないと、人間力を高めたり自己実現に向かうには難しさがあると思いますし、学校や教職員の方々への思いも込めて、このような言葉にしました。最終的に自分らしくどう生きるか、自己実現という言葉に表しています。少し硬いかなと思いますが、大切なことだと思っています。

### 子育てを通じて横須賀が好きに

目指す教育の姿に「横須賀が好き」という言葉があります。私は、他の市から移り住んで22年になります。横須賀のことを何も知らずに来ましたが、子育てをする中で、これは社会教育にもつながると思いますが、博物館や天神島に行く、合唱団に参加するなど、広報を見ながら本当に横須賀の多くの場に子どもを連れて歩きました。

結果、私は今、横須賀が好きです。子どもたちも誇りに思っていると思います。

ですので、少し大人の意識もありますが、時間をかけて共に動き、よいところを見つけていく。それが最終的に、ふるさとが好きということにつながると感じています。

### 学校が「集いの場」になれば

検討委員会に参加させていただきましたが、委員の皆さんのお話には、時には講義を受けている気持ちになりました。

小野寺さんのご意見は、今まさにお子さんと一緒にこの時代を過ごすお母さまの目線でしたが、私の意見はあまり貢献できないというか、時代錯誤なのではないかと思いい、一度教育委員会の方にもつぶやいたことがありました。しかし「いや、大丈夫です。市民の意見としてどんどんおっしゃってください。」と背中を押していただいたので、思うところをお話いたしました。

うちは下の子が成人式を終えました。教育に関していろいろと話を聞き、意見を言ってくれる子ですけれども、私も「もう子どもに依存してはいけない」と思い、委員に応募しました。また、今回のことがきっかけとなり、勤労学生として学校に行くことにしました。

今後の期待ですが、私が描く学校は、集いの場です。子どもは、17時まで空いている教室で学びたい人は学び、好きなことをする。休み時間には大人と関わり、放課後もおじいちゃんにコマ回しを教わったりする。先生方も、そういう社会で市民と交わる。学校が、そんな集いの場になれば良いなと思います。そういう横須賀で暮らしていきたいと思っています。

### 次号「策定に関わった方の思い

（市民や保護者の視点・その2）へ続く

### Topic 横須賀市学校施設の長寿命化計画

児童生徒の増加を背景に昭和50年（1975年）代に集中して建設された本市の学校施設について、長寿命化に向けた計画的な維持・保全に関する方針を定め、効率的で安全な施設運営を行うための計画です。

計画では、目標耐用年数を定め、予算の平準化および中長期的な維持管理などに関係するコストの縮減を図り、学校施設に求められる機能や性能を確保することとしています。

